



れんけい

題字：松尾信彦書

肝胆膵外科手術について

消化器・一般外科 部長 信岡 大輔

当科の肝胆膵外科担当スタッフが2018年10月より市原周治・信岡大輔の2人体制となり、さらに充実しました。新スタッフの信岡大輔は日本肝胆膵外科学会が設ける肝胆膵外科高度技能専門医に認定されています（香川県内に3名）。

肝胆膵外科領域は解剖が複雑で周辺臓器が相互に密接に関連するため、高難度な手術術式が多いとされています。このたび担当スタッフが増員されたことで以前と比べて随所に余裕が生まれ、患者さんの状況に合わせてさらなる高難度手術や低侵襲手術に挑戦することが可能となりました。

実際に肝切除では、2018年後半から手術症例数が大幅に増加しているのに加え、高難度術式（亜区域切除・区域切除・葉切除）の割合が増加し、さらに部分切除の多くは開腹手術から腹腔鏡手術に移行しました。膵切除も2018年後半から症例数は増加の傾向を示しています。

当科・肝胆膵外科部門では、①患者さんに必要な高難度手術を適切かつ安全に提供する。②可能な限り低侵襲を心がけ、腹腔鏡手術を積極的に取り入れる。③根治の機会を逸することなく、患者さんの不安を最小限に抑えるために手術待機期間をできるだけ短くする。をモットーに、今後益々の充実化を図ってまいります。当該疾患の患者さんがおられましたら、ぜひともわれわれにご紹介いただきますようお願いいたします。



医療セミナーを開催します

- | | | |
|---|--|--|
| <p>日 時：10月3日（木）
19時00分～</p> <p>場 所：当院1階講堂</p> <p>テーマ：「未定」</p> <p>講 師：放射線科 部長
吉尾 浩太郎</p> | <p>日 時：10月24日（木）
19時00分～</p> <p>場 所：当院1階講堂</p> <p>テーマ：「当院におけるがんゲノム医療外来の現況と展望」
～プレジジョン・メディスンを目指して～</p> <p>講 師：腫瘍内科 診療科長
川上 公宏</p> | <p>日 時：11月28日（木）
19時00分～</p> <p>場 所：当院1階講堂</p> <p>テーマ：「リンパ浮腫治療について」</p> <p>講 師：形成外科
品岡 玲</p> |
|---|--|--|

information

脳血管内治療専門医が2人体制になりました

脳神経外科 部長 勝間田 篤

脳血管内治療はカテーテルによる治療で、主に『脳卒中』の原因となる頭頸部の動脈瘤、急性期脳梗塞、血管狭窄、血管奇形などの血管病変に対して行われます。外科的治療に比べると新しい治療法ですが、デバイスの開発とともに年々進歩を遂げており、頭を切らずに行うことができる低侵襲な治療法です。本治療法も手術であることには変わりなく、高度な専門的知識と経験が要求されますので、専門医制度が設けられています。当院では、勝間田に加え、この春あらたに脳血管内治療専門医となった西廣が加わり、専門医2人体制になりました。これにより当院は香川県内でも数少ない脳血管内治療医が複数在籍する施設となりました。これまでも24時間体制で精力的に脳血管内治療を行ってまいりましたが、さらに柔軟かつ即時性をもって脳卒中患者に対応することが可能です。

脳卒中の治療は時間が勝負です。急性期脳梗塞に対しては、まずt-PA（アルテプラゼ）静注療法が行われます。t-PAが使用できない症例や無効症例に対しては、血栓回収療法により症状の改善が期待できます。この治療はステント型デバイスや吸引カテーテル型の血栓回収デバイスを用いて行い、文字通り直接血栓を回収する治療法です。主幹動脈の脳梗塞では、閉塞血管の血流再開が早ければ早いほど、症状が回復して後遺症も軽くなる可能性も高くなります。閉塞時間が30分経過するごとに改善の可能性が10%低下するといった報告もあります。当院ではいつ何時も迅速に対応できる救急体制を整えており、これまでの豊富な経験を生かし、病態に応じたデバイスの使い分けや組み合わせをしながら治療を行っています。最新の国産ステント型血栓回収デバイスも、香川県ではいち早く当院で使用可能となっています。

当科には血管外科専門の医師もちろん在籍しておりますので、頭頸部疾患の治療に際しては、脳血管内治療、開頭外科治療を問わずそれぞれの患者さんに適した治療法を選択し、最善の治療を行うことを心がけております。今後とも地域医療の貢献につながるよう努力してまいりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。



西廣医師

勝間田医師

勝間田 篤 日本脳神経外科学会専門医
日本脳神経血管内治療学会認定専門医
西廣 真吾 日本脳神経外科学会専門医
日本脳神経血管内治療学会認定専門医

平日の日中（8：30 - 17：00）は脳神経外科ホットラインでも対応いたします。（087-802-1192）

時間外は、救急部で対応いたしますので病院代表へお電話ください。

information

皮膚科の紹介

皮膚科 診療科長 森下 佳子



皮膚科では、皮膚に症状の現れる病気、特に自己免疫性水疱症、乾癬、重症型アトピー性皮膚炎などを中心に外来診療を行っています。また、がん薬物療法に伴う皮膚障害、重篤な臓器障害患者における皮膚病変、薬疹など、他科診療を補佐する診療も臨機応変に対応しています。

乾癬やアトピー性皮膚炎などに対する中波紫外線治療の為に、2018年に大型の治療機械を購入しました。長いランプを備えた機械で、患者さんに治療台に横になってもらって紫外線を上下半身に一度に照射でき、躯幹四肢の治療が体の前面・後面の計2回の照射で行えます。またランプが高出力となったこと

も相俟って、ナローバンドUVBの照射治療が従来の治療機械と比べて短時間で行えるようになり、患者さんには好評です。

乾癬に対しては、生物学的製剤を適宜選択して使ったり、患者さんによっては内服薬と外用薬を組み合わせた治療を行ったりしています。

遅延型アレルギー疾患に対しては、金属16種類やパッチテストパネル(S)のパッチテストを行なっています。残念ながらチタンのパッチテストは試薬がなく行っておりません。即時型アレルギーに対する検査は、症例に応じ特異的IgE抗体測定、プリックテスト等を組み合わせて行なっています。

がん薬物療法に伴う皮膚障害では、主科と連携し、内服と外用の薬物療法や、陥入爪に対するテーピング・手術などを組み合わせながら、できるだけ患者さんの生活の質を保てるように細やかな加療を行っています。

NEWS

認知症院内デイケアを始めました

認知症看護認定看護師 藤井 智子

当院では、認知症ケアチームを結成し、身体疾患を持って入院される認知症の方のケア向上のため様々な活動を行っています。「認知症の方も笑顔になる認知症ケア」を目指すチームが、結成当初より念願だった、院内デイケアがついに始まりました。院内デイケアは介護保険でいうデイサービスの病院型で、毎週木曜日1時間程度、作業療法士や看護師が参加される方に合わせて道具を使ったレクリエーションや昔を回想する場を計画し、少しでも治療の場を離れ日常を思い出していただけるような場にはしています。風船バレーでは飛び交う風船に集中し、相手を受けやすいように風船を返す、思わず手が動き、笑い声があふれます。昔のお話には共感やねぎらいの声が聞かれ、患者さん、医療者の立場を超えた心の交流が芽生えます。短い時間ですが、病室では見られない表情や思わぬ力が発揮され、その人らしさを感じられる瞬間があります。病棟へ帰る時は、「ありがとう」「楽しかった、また呼んでな」と手を振って帰られる患者さんの笑顔に、私たちは達成感と「こちらこそ」という感謝の気持ちであふれます。院内デイケアを初めて約半年、病棟からは回数や時間を増やしてほしいという声もあり、急性期病院こそ院内デイケアの必要性が高いと感じています。今後も、入院生活に少しでも「楽しさ」や「心地よさ」を提供し、患者さんの笑顔を引き出せるような質の高いデイケアにしていきたいと思っています。



NEWS

がんゲノム医療に関する市民講座を開催しました

事務局次長 國土 富男

6月2日（日）、当院講堂において、「女性のがんと遺伝」と題し、市民講座を開催しました。今回の講座では、乳がんや卵巣がんなどの遺伝と関連しているがんは、早期に予防策を講じることが可能であることを県民の皆様にお伝えしました。

講師は福島県立医科大学附属病院 臨床腫瘍センター 認定遺伝カウンセラーの赤間孝典先生、遺伝性乳がん卵巣がん当事者会NPO法人クラヴィスアルクス理事長、一般社団法人ゲノム医療当事者団体連合会 代表理事の太宰牧子先生、当院がんゲノム医療センター ディレクターの平沢晃医師でした。「女性のがんと遺伝」について、講師のそれぞれの立場からご講演いただき、90名の参加者が熱心に聴講されました。

がんゲノム医療、遺伝カウンセリングや当院における取り組みなどを紹介するため、今後も定期的に講座を開催する予定としておりますので、次の機会に皆様も是非ご参加ください。



NEWS

「病院祭&院内コンサートを開催します」

業務課 近藤 歩

♪ 第11回香川県立中央病院 病院祭 ♪

日時：10月19日（土）10:00～14:00

場所：当院1階ロビー周辺

公開講座、コンサート、ちびっこ白衣体験、ちびっこ薬剤師体験、院内ツアーなど、お子様にも大人の方にもお楽しみいただける各種イベントをご用意しております。

※院内ツアーについては、人数制限等がありますので、希望される方の人数によってはご参加いただけない場合がございます。受付方法等の詳細については、8月下旬頃から当院HP、病院祭チラシなどに掲載予定です。

♪ 院内コンサート ♪

① 松中啓憲ピアノ弾き語りコンサート

日時：9月17日（火）13:30～14:10

場所：当院1階講堂

② 坂出高校合唱部コンサート

日時：11月2日（土）10:30～（45分程度）

場所：当院1階ロビー

どなたでもご入場いただけます。皆さまお誘いあわせのうえ、ぜひお越しください。



放射線部のPET-CT検査の紹介をします

放射線部 副主幹 前橋 佳典

PET-CTとはPET (Positron Emission Tomography: 陽電子放出断層撮影)とCT (Computed Tomography)の特徴を融合した検査のことで、PETとCT二つの検査を一度に短時間で行うことが出来ます。

PET検査はCTやMRIなどの体の構造や形態をみる検査とは異なり、細胞の活動状況を画像でみることができ、悪性腫瘍などの診断に有効です。

からだの細胞はエネルギー源として、ブドウ糖を必要としています。悪性腫瘍は正常細胞に比べて増殖が盛んに行われるためブドウ糖を3～8倍必要とします。PET検査はこの性質を利用して行う検査法です。

ブドウ糖に、目印となるごく微量の放射線を放出する放射性同位元素フッ素18 (¹⁸F)を合成した薬剤 (FDG)を注射し、PET装置でほぼ全身の分布を撮影します。FDGが集積しているところから放出される微量の放射線をPET装置で捕えて、CT画像と重ね合わせて表示することで位置や大きさを調べることができます。

PET検査での被ばく線量はCTの被ばくを合わせると、1回あたり約10mSvぐらになります。この線量で急性の放射線障害が起こることはありませんのでご安心ください。

最近ではTVドラマ等でPET検査が登場するようになり、一般的な検査となってきました。

来年度には県下で5施設目となるPET-CT装置が稼働する予定と伺っています。

これを機に、PET-CT検査に関心をもっていただければ幸いです。



当院のPET-CT装置

コラム お通じにまつわるうんちく話 (その9)

消化器内科 部長 田中 盛富

前回は、植物繊維 (セルロース)と腸内細菌のお話でしたが、今回も植物にちなんだお話です。私たちは、野菜や果物といった植物は食べますが、同じ植物の「木」はなぜ食べないのでしょうか？木も植物繊維を含んでいますが、植物繊維にはセルロース以外に、ヘミセルロース、リグニンという成分もあります。木が他の植物と異なるのは、このリグニンが木を形作る主要な成分であるという点です。リグニンは高度に組み合わさり、とても硬い構造となり、木の基本である木質化の中心成分となります。リグニンを分解できるのは、木材腐朽菌 (ふきゆうきん)という菌類であり、シイタケやマイタケも腐朽菌の仲間です。私たちの腸内には、リグニンを分解できる菌は知られていません。

このセルロースやリグニンなどが、いわゆる不溶性食物繊維ですが、我々の腸内細菌は、セルロースを発酵という過程を通して分解できても、このリグニンには、全く歯が立ちません。ちなみに、リグニンは、「木」と比べると少ない量ですが、ごぼうや大根などの根菜類、小麦ふすま、カカオを含む豆類などにも含まれます。

リグニンを発酵、分解できないという意味では、腸内細菌にとっては面白くないのかもしれませんが、不溶性食物繊維は、大腸のお掃除をするのでよいとされていますので、リグニンが含まれる食品は大腸にとってはうれしいものようです。

次回も、腸内細菌に関連したお話の予定です。

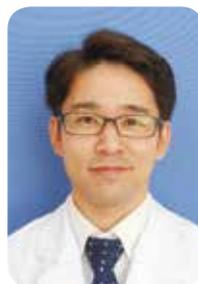


医師の人事異動

● 転入 (7月1日付) ①出身大学 ②卒業年 ③趣味 ④抱負



小畑 ダニエル
(麻酔科)
①福岡大学
②平成16年
③音楽を聴くこと
④早く新しい病院での仕事に慣れること。よろしくおねがいします。



宗政 修平
(泌尿器科)
①岡山大学
②平成24年
③野球観戦
④一歩ずつ頑張ります。

● 転出 (6月30日付) **児島 宏典** (泌尿器科)

肝臓病患者会 交流会を開催します

日時：9月29日 (日)
10:00～12:00
場所：当院1階講堂
オカリナの演奏や当院肝臓内科 妹尾医師による肝臓病についての講演会があります。
会員以外の一般の方も、どうぞお気軽にご参加ください。